

ミャンマーの食と文化を体験

6月12日、せとびゅあーひがしかわ食堂ワックにてワンデイシェフを行いました。今回はC.I.R.（国際交流員）のチョウさんがミャンマーの家庭で良く食べられる料理を日本風にアレンジし、1日限定で提供。「鶏肉とじゃがいものカレー」は、ナンプラーで下味をつけた鶏肉と赤玉ねぎの甘みの後に、唐辛子のピリリとした辛さがくる



味わい深いカレー。サッパリしたトマトサラダや「ココナッツミルクの寒天」の優しい甘さが食後の口の中を整えてくれました。文化交流課

でレシピを配付中なので、ご興味のある方はご自宅で作ってみてはいかがでしょうか。うか。



多文化共生室では、6月7日～25日にミャンマーの展示会を開催。

期間中の金曜日には民族衣装である「ロンドン」を試着して世界遺産・バガン遺跡のポスターの前で記念撮影をしたり、自分の名前をビルマ文字で書いたりして、ミャンマー文化を体験できました。旅行しにくい昨今ですが、気分だけでも海外に飛んで行けたでしょうか？
7月はロシアの展示と文化体験を行います。

不朽の名作椅子「No.14」を深掘り

6月14日、せんとびゅあーギャラリィでデザインスクール特別編③を行いました。ミヒヤエル・トナーネットが生み出した不朽の名作『No.14』について、椅子研究家・織田憲嗣氏が詳しく解説。産業革命期、都市部に人が集中する時代。トナーネットは低賃金で働く労働者の需要を

見越し、高価なオーダーメイド家具ではなくレディメイドでの大量生産を視野に入れました。彼が開発した「曲木」の技術により、丈夫かつ細く軽い部材で作られた『No.14』は、たった6つのパーツから成る組立式の椅子。分解して省スペースに詰め込み輸送コストを押さえ、利用価値の無かったボナの木を素材にし、当時画期的だったボ

ドットレトミシナー、交通安全アドバイザーに就任

ドットレトミシナーの長尾匡祐さん・佳詩子さん（＝町地域おこし協力隊）が、北海道警察より「交通安全アドバイザー」に任命されました。これは、



▲小西健二音楽堂で行われた委嘱式にて(6月1日)

自らの担当する番組で交通事故防止の情報を発信する人を任命する道警の制度で、全道で約130人が活躍しています。旭川東警察署の管轄区域ではドットレトミシナーが第1号となりました。

この任命を受け、FMリバー（83・7MHz）で毎週（午後9時～同10時）に放送している東川のラジオ番組「東川ミュージック・フォレスト」内で、地域に根

拠っています。全国の間に聞いていただいているので、親しみやすく交通安全を呼びかけたい」という佳詩子さんのコメントどおり、番組を楽しみながら、ぜひ交通安全についても考えてみてください。

スターカタログを店頭で置くことで営業マンの代わりをするなど、価格を下げるために徹底的に工夫しました。「トナーネットは世界で最も優れた家具プロデューサーであり、家具職人、家具デザイナーであ



▶左下が『No.14』、その上がカタログポスター

る」とは織田氏の言葉。デザインだけでなく、さまざまな分野に新しいアイディアを盛り込む先人の知恵からは、今の時代を生きる我々も学ぶことが多くあります。今回は7月14日（水）、マルセル・ブロイヤール作『チェスカ』を深掘りします。